

今井館教友会文化講座

苦しみを生きる 未来への希望とともに

この困難な時代のなかで

21世紀の現代社会は、ウクライナ、パレスチナでの戦争、パンデミック、気候変動など、世紀の困難に直面しています。また地球環境問題を含め、「人新世」という新しい「人類の時代」を迎えています。

今井館教友会文化講座では、今回は内村鑑三の130年前の著名な講演『後世への最大遺物』（4月28日）と、未来社会への希望と苦しみからの救済をテーマとした大江健三郎『燃えあがる緑の木』（6月1日）を取り上げ、この困難な時代のなかで新たに読み直し、ともに考えます——「苦しみを生きる 未来への希望とともに」。

2024年 4月28日【日】
後世への最大遺物
6月1日【土】
燃えあがる緑の木

時間 14:00～16:00 (30分前受付開始)

対象者 どなたでもご参加いただけます

参加費 各回1,000円 (当日会場にてお支払いください)

定員 各回先着30名(要事前申込)

会場 今井館 2階集会室
〒113-0021 文京区本駒込 6-11-15 TEL・FAX 03-6277-5669

申込 裏面をご覧ください



講師

こばやしかよし

小林孝吉 氏

NPO法人今井館教友会監事

文芸評論家 明治学院大学文学部卒業。博士(学術)九州大学。

著書『椎名麟三論 回心の瞬間』(菁柿堂)、『滝沢克己 存在の宇宙』(創言社)、『椎名麟三の文学と希望』(菁柿堂)、『内村鑑三 私は一基督である』(御茶の水書房)、『原発と原爆の文学』(菁柿堂)、『内村鑑三の聖書講解』(教文館)、『内村鑑三の信仰詩・訳詩・短歌等集成』(編著)、『後世への最大遺物』(現代語訳)、他。1953年生まれ。

第1回 2024年 4月28日 (日)

内村鑑三『後世への最大遺物』——美しい地球と社会に遺すもの

無教会キリスト者・内村鑑三は33歳のときの著名な講演『後世への最大遺物』でこう問いかけます——この美しい地球、我々を育ててくれた社会に、後世に、何を遺していくのか、と。現代をも照らすこの清冽な講演の意味を新たに考えます。

第2回 2024年 6月1日 (土)

大江健三郎『燃えあがる緑の木』——「最後の小説」と魂の救済

大江健三郎は、1994年にノーベル文学賞を受賞した頃、自ら「最後の小説」と呼んだ、『燃えあがる緑の木』を発表しました。森と谷間の「燃えあがる緑の木」の教会を中心に、魂の救済をテーマとするこの作品を通して、未来社会を生きる希望について考えます。

【申し込み方法】下記サイトにアクセスしてください。

<https://reserva.be/kyouyukai>

合言葉を「内村鑑三」と入力するとサイトに入れます。

「ホーム」にある講座案内の各講座内容記載枠の中の「予約する」というところをクリックして必要事項を記入してお申し込みください。ご質問の記入欄もあります。

*無償サイトを利用しましたので、バナー（CM看板）が主に上下に掲載されています。例えば、「ドライバーの更新」などのバナーが出てもクリックしないようにしてください。また、レセルバの会員になる必要はありません。氏名等の記入で申し込みます。ご面倒をおかけしますが、くれぐれもご注意ください。

※ご記入いただいた個人情報は、上記の利用目的のみに使用し、第三者に提供することはありません。

※電話でのお申し込みは受け付けておりません。

※問合せ先 event@imaikankyoyukai.or.jp



主催・NPO法人 今井館教友会